

この本を読もう!



『川崎和男 ドリームデザイナー—課外授業ようこそ先輩』(別冊課外授業ようこそ先輩) (KTC中央出版)

川崎さんが出演したNHKテレビの番組「課外授業ようこそ先輩」を本にまとめた一冊。テレビ同様、川崎さんの熱い思いが伝わってきます。



困難から生み出される 自分力を信じよう!

君の将来の夢は何か? そして、夢の実現に向かって進む君に、思いも寄らない困難が降りかかったら……。出会った困難をハネに、新たな方向を見出せたら、そここそが、君の強み! あきらめないで! そこからまた、次の一歩が踏み出せる。(先生からのメッセージ)

車椅子のデザインで世界が注目
東芝のデザイナーとして働いていた川崎和男さんは28歳のときに交通事故にあり、車椅子生活を余儀なくされます。しかし、その障がいをはね返すかのように、新たな創造にいとみしました。それが世界一の軽さを実現した車椅子CARNAです。機能と美しさを兼ね備え、従来のイメージをくつがえしたデザインは絶賛され、1994年、ニューヨーク近代美術館に永久収蔵されました。また事故の手術で、自分の体内に詰め込まれたポルトとナットのデザインが気に入らず、改良にいとみします。そのためには医学の知識が不可欠と知るや、独力で医学博士号を取得。さらに数学の論理的な美しさをデザインに取り入れ、人工心臓などの人工臓器、医療器具へと、デザインの領域を広げました。

自分にとって美しいものは何か

川崎さんは、たわし、眼鏡、家電製品などの日用品から車椅子、ロボット、コンピュータ、原子力発電機まで、さ

平和な世界をデザインしたい

さまざまなデザインを手がけていきます。自分にとって美しいものとは何かを問いかけながら、これまでの常識を打ち破る新しいデザインを創造していきました。

「あきらめるな。世界は何度でもデザインし直せる」
川崎さんが今取り組んでいるのは、世界をデザインすることです。世の中を美しくすることがデザインであるなら理想を現実の世界に広げていくこともデザインの役割。戦争、貧困、疫病で苦しむ世界をデザインによって救いたいと考えています。そのプロジェクトがPKD(ピース・キープング・デザイン)で、第一弾は簡単かつ安全に接続できるワクチンのデザインです。銃を手に行われるPKD(国連平和維持活動)に対して、デザインで貧しい人々を救おうという試みです。川崎さんは、車椅子の自分が国連に乗りこむことを夢見しています。



川崎さんはデザインで世界を救おうと考えているよ!



あきらめるな。世界は何度でもデザインし直せる。

川崎和男

プロダクトデザイナー

川崎和男さんってどんな人?

世界をリードする製品のデザイナー

1949年2月26日生まれ、福井県福井市出身。大阪大学大学院教授・医学博士。伝統工芸品、眼鏡、コンピュータ開発から人工心臓まで、はば広くデザイン活動を行っています。グッドデザイン賞審査委員長などを歴任。多くの賞を受賞し、海外の主要美術館に永久収蔵、永久展示される作品が多数あります。

